

2024/10/16

21C/4組/藤田

内と外の危機

☆江戸時代後半の日本でどのようなことが起き、どのような対応をしたのか？

(1) 外国船の接近

○1792年に(①ロシア)の使節であるラクスマンが根室に来航。

- ・日本と貿易を求めるが、日本(松平定信)は断る。

◎欧米諸国の対立、捕鯨業の広まり…イギリスやアメリカも日本に近づき始める。

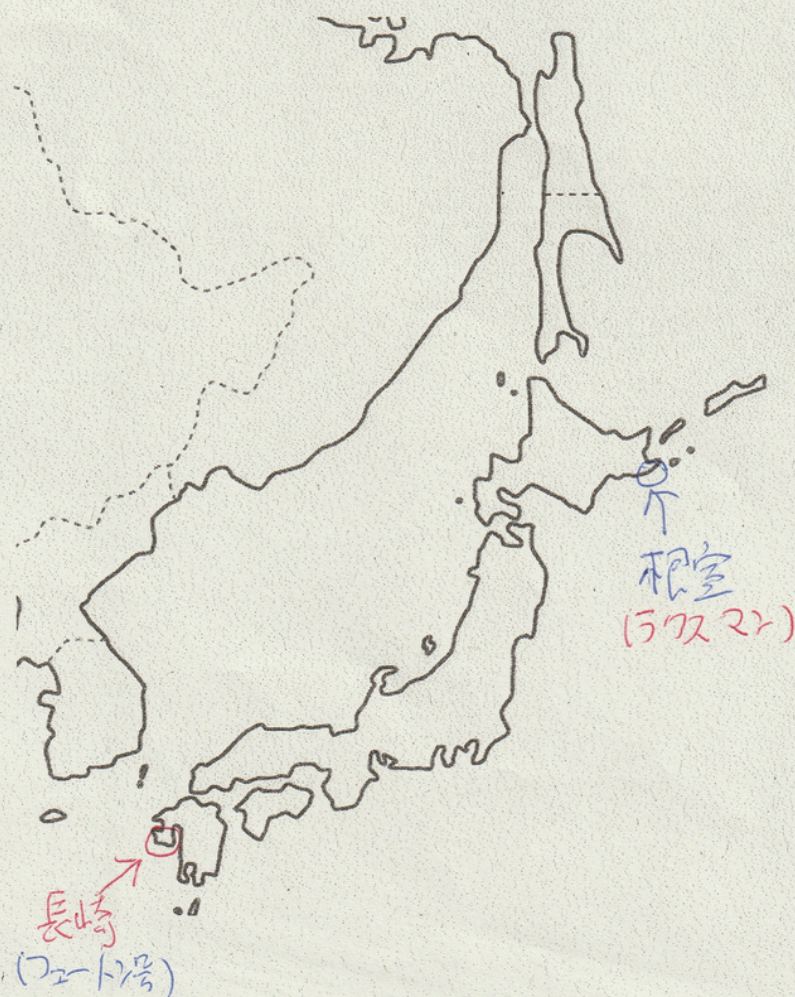
(例) 1808年、イギリス船のフェートン号事件

→長崎

○日本は1825年に(②異国船打払令)を出す。

- ・接近する外国船を砲撃して追い払う。(例) 1837年、アメリカ船のモリソン号事件

※この頃、(③間宮林蔵)が大陸と樺太が陸続きでないことを発見…間宮海峡



(2) 変動する日本社会と民衆の反抗

※19世紀になると、借金で苦しむ農民が都市に出稼ぎに出た。

○(④工場制手工業) (マニファクチュア)

- ・出稼ぎに来た働き手を1つの作業場に集め、作業を分担させる生産方法。
- ・この生産方法は綿織物業、絹織物業、酒造業などで行われた。



○1830年代に天保の飢饉が起こる。

- ・都市では打ちこわし、農村では百姓一揆が頻発する。
- ・大阪で1837年に陽明学者の(⑤大塩平八郎)が飢餓から人々を救おうと役所や豪商に対し兵を出した。

→元幕府の役人

(3) 幕府の改革

○(⑥参勤交代) (参勤交代)

- ・幕府は外国船を追い払うことを批判した蘭学者の渡辺崋山や高野長英を処刑。

○1841年、(⑦天保の改革) …(⑧水野忠邦)の政策

- ・本の出版を制限したり、贅沢を禁止したりした。
- ・株仲間を解散させた。
- ・江戸へ出稼ぎにきた農民などを村に帰らせた。

☆江戸時代後半の日本でどのようなことが起き、対応をしたのか？

(日本に外国(イギリス、ロシア、アメリカなど)がきて、異国船打払令によって追われてきた。)
政治的には、元幕府の役人として参勤交代を行っていた。
そして水野忠邦が天保の改革で株仲間の解散を行なった。